

これからの通院介護事業

早いもので、ボランティア研修交流会も十三回目を迎えました。今回は、安芸の宮島に行きました。往きのバスの中で「介護保険と通院介護事業について」江頭会長の講義がありました。話の抜粋を掲載します。
(編集部)

介護保険制度の背景

厚生労働省の統計によると二〇五〇年には、六十五歳以上の高齢者が四人に一人になり、超高齢化時代が到来すると予測されています。

また、現在でも、高齢者の高齢化が進み(昔は七十歳位でしたが今は八十五歳位までになっている)介護のことが社会問題になっています。

高齢者が長生きするため、長い間介護をしなければならなくなり、介護疲れによる殺人や、老々介護により、社会問題が派生してきています。措置制度から保険制度へ

今までは、市町村の予算の範囲内で、市が認めたものだけが、ホームヘルプのサービスが受けられました。これを措置制度と呼んでいます。

ここでは、介護が必要な人すべてが、サービスを受けられませんが、

そこで、国、市町村、国民の三者が保険料を払い、国民

が介護が必要となれば、全ての国民がサービスを受けられる制度にしたのです。これが介護保険制度です。

保険ですから、保険料を払っている国民は、全員介護サービスがうけられます。

介護が必要になったときには、市町村に申請をします。その申請をすると、介護度が出ます。その介護度によってサービスの程度が決まります。移送サービスについて

介護保険では、移送サービスは、市町村の専権事項になっています。市町村が移送サービスをしないう限り、送迎はしてもらえません。

全国的には、送迎サービスは実施されていません。北九州市では、「さわやか」が、その任務の一部を受け持っています。

また、北九州市では、福祉タクシーが出現し、無料送迎をして、国土交通省、厚生労働省で、大きな問題になって

います。

タクシーの緑ナンバーは、料金を取らないのは問題だ、とか送迎だけして、身体介護をしない業者は免許の取消しもあると言っています。

現在、送迎サービスについては、国土交通省、厚生労働省、で論争の最中で、移送問題については、まだ結論が出ていません。

透析患者にとっては、週三回の通院は絶対に必要なものです。その意味では、「さわやか」の送迎サービスは、透析患者にとっては、命綱です。ホームヘルプ

サービスとの連携

難病連北九州市支部と北九州市腎友会が母体となり、「いきいき北九州」と「さわやか」がお互いに連携することにより、透析患者に大きな福音を与えることとなります。

ボランティアの皆様のご協力をよろしくお願い致します。ボランティア活動をはじめヘルパーの資格をとられて、送迎とホームヘルパーの双方を

していただければ、幸甚です。今後、送迎問題は、透析患者にとっては、重大なることには明らかです。今後の推移を見守りましょう。



ボランティア 高村 公明

2年前の9月に思いもかけず胃の手術を受けました。病院の先生はじめ、沢山の方にお世話に成り、家族にも大変心配をかけたのですが、お陰で元気になり、職場復帰もする事ができました。

何か人の役に立つ事が出来たらと思っていた折2001年の1月、通院中の窓口でボランティアの募集を見かけ、送迎を引受ける事にしました。命の大切さを身をもって経験した事で会話も色々あります。

この度の宮島への研修旅行に初めて参加させていただきましたが、大変良かったと思っております。これからも、体の続く限りボランティアには参加したいと思います。



お知らせ

「さわやか」の副会長でありました小野正典さんが退任されましたので、かわいクリニックの腎友会会長でもあります、岡俊一さんが就任されました。よろしくお願い致します。

ごあいさつ

副会長 岡 俊一

私が送迎ボランティアを始めてようやく一年。事あるごとに事業所にお邪魔するようになり、スタッフの仕事ぶりにいつも感心させられていました。そんな未

レSSHヤーはありますが、江頭会長以下スタッフの方々の足手まといにならないようにするのが当面の目標というところです。

熟者の私に「副会長を」とお話を戴き驚きましたが、お役に立てるのならとお引き受け致しました。小野正典氏の後任ということでは

全国に先駆け発足した、通院介護センター「さわやか」も五周年を迎え、事業内容も益々充実してきています。これは言うまでもなくボランティアの皆様のお

編集後記

梅雨の真っ只中とはいえ、毎日とうとう暑い日が続いています。ボランティアの皆様は大変だと思えますが、安全運転でよろしく願いいたします。

前回号より「さわやか新聞」が変わりました。研修交流会で行った「安芸の宮島」がとてきれいに撮れていましたので五周年を前に思い切ってカラー印刷にしました。より新聞らしくなってきたとの声もあり「さわやか編集部」は一段と張り切っています。皆様からの原稿を心よりお待ちしております。

盆休み

8/11
8/15



力と感謝申しあげます。私も送迎を行なってはいますが、なかなか思うように回数が増やせません。でも地道に長く続けたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

透析病院紹介

かわい泌尿器科クリニック

院長 川井 修一 先生

第3回目の病院紹介は、かわい泌尿器科クリニックです。場所は小倉北区馬借（ばしゃく）です。市立医療センターの目の前にあり、モノレールやバス停も近く、北九州市の台所且過市場もすぐそばで、とても便利のよい場所にあります。

北九州オフィスビル3階に上がり玄関を入ると、明るい待合室と受付があり奥に外来の診察室、その奥に22床の透析室があります。室内は間接照明で一部木目の壁が暖かさを増しており、家庭的な落ち着いた雰囲気になっています。私たちが取材に訪れた時、満面の笑みで玄関先まで出迎えて下さった、川井先生のお人柄がでていいるのではないのでしょうか。

また、患者さんが4時間の透析の間、いかに快適に過ごせるかと言うことを常に考えておられ、各ベッドにアーム付きの液晶テレビを備え、ビデオデッキも数台用意して患者さんのニーズに答えていらっしゃいます。先生自らレンタルビデオのお店に出向いて、新しいビデオを借りて来られるそうです。食事にも力を入れており、患者さんにはできたての、あつあつを出すようにされているそうです。「食事はどこにも負けません！」と力強くおっしゃった先生のお顔がとても印象的でした。

川井先生がなぜ泌尿器科の先生になられたかという話のある患者さんから聞きました。先生は「初診から手術、それから術後のケアまで一貫して患者さんを診ることができるのは泌尿器科だけだからです」と言われたそうです。私たち患者にとっては、とても心強い言葉だと思います。

また、「さわやか」の通院介護事業にも多大なご理解とご協力をいただきスタッフ一同大変感謝致しております。

これからも、先生やスタッフの方々々と連絡を密に取り合いながら一人でも多くの患者さんが社会に何らかの形で参加できるように、「さわやか」が少しでもお手伝いできればと思っています。



コメント

開業して五年経ちましたが、川井先生ご指導のもと順調にきたのではないかと思います。先生の医療に対する姿勢にはいつも感心しています。スタッフ一同先生と共に、日々安全・安楽な透析を行なうよう心がけていきたいと思っています。

◆プロフィール◆
川井 修一
かわい しゅういち
昭和29年 岡山県笠岡市生まれ
昭和54年 山口大学医学部卒業
昭和60年 山口大学大学院
泌尿器科修了
博士号取得
昭和62年～平成8年3月まで小倉記念病院泌尿器科従事
平成8年4月1日 かわい泌尿器科クリニック開業
★泌尿器科 専門医・指導医 ★透析医学会 認定医

▶ 院長先生から一言 ◀

本院の理念は、家庭的な雰囲気の中で、確立された範囲で安全で高度な医療を提供することです。開業して平成13年4月で五年になりました。開業する前は小倉記念病院に勤務していましたので、心筋梗塞など心臓疾患や手術後に合併した腎不全の治療に昼夜問わず透析を行っていましたが、重症患者さんが多く患者さんの生活の質（QOL）など考える余裕はありませんでした。しかし開業してからは、慢性疾患としての透析治療を考える場合には、患者さんは、一週間で平均12時間、一年で624時間（26日間）を透析室で過ごすわけですから透析室でいかに快適に過ごせる環境を提供できるかを考えています。そのため透析室の壁は総合病院にはない木の壁で落ち着けるようにしています（最近では増改築にて木目の壁は一部になってしまいましたが）。開業当時よりすべてのベッドにアーム付きのポータブルテレビを備えて希望する患者さんにはビデオを用意して4時間を快適に過ごせるよう心掛けています。食事もお手料理で、患者さんにとって楽しみのひとつです。調理師さんには無理を言って、厨房からできたての暖かいものを出すように心掛けています。また透析の開始の穿刺も決まった時間に

来院しなければならぬと苦痛になりますので、仕事をされている人には来院時間に幅をもたせて来院されたら待たせることなく医師がすべて穿刺するようにしています。

患者さんへの快適な透析空間のサービスはもちろんですが、透析治療としても安全で高レベルの医療を提供するため、透析液のエンドトキシンは定期的に検査して基準値以下のきれいな透析液で治療を行っています。平成12年8月よりはオンラインHDFを導入して現在7つのベッドでできるようになっていますが、今後も順次オンラインHDFを増やす予定です。

また本院の特徴としては、クリニックでCAPDの管理を行い、現在8名のCAPD患者さんが通院されて、2名は血液透析と併用しています。CAPDは生活の質（QOL）の点では非常に優れた面があり、血液透析だけでなくCAPDも腎不全治療には欠かせないものと考えています。

泌尿器科の外来も積極的に行っており、5年経過して次第に定着してきました。開業している泌尿器科専門医は少ないので、今後も地域医療に貢献したいと思っています。